

明治八年 大坂 錦田 新聞 第十二号

明治八年 大坂 錦田 新聞 第十二号

東京深川柳船町のことばありん  
十五の年とていふ娘に婿と  
縫い針の親慎じ情欲の道

定めたる勝用作伴とて吉日の智禮に表くらり  
一人の男誰に遠慮も嫉妬せけりてこり上座をとり  
皆さん聞き當家の娘おやくと夫婦の約束をまたの  
おまじ番地清水といへる苗字あり泥とぬきまじつて  
洗ひてくまると威張りまは四海浪さへ突波のことく  
大いふふふふふ九度よの七三々とて罵る者ハ  
誰あんとつづく顔と官本といへる男は覺ある  
娘も今も面目もあくもあけぬまじりあり  
右 正情堂九化詠  
縫い針の親の天狗の面かたは娘



石和板

